

表面の問題の答えは4つとも正解のような感じがしますが、学力テストでは2.外に出て、風雨の強さを調べたり、川や海のようなものを観察したりする。が不正解だそうです。これを選ぶと、その子は「自然現象への関心・意欲・態度がない」ということになります。おそらく「危険だからダメ」という“道徳的”な理由からこれを不正解にしたのでしょうか、具体的な事実を調べるという科学の方法から言えば、こちらの方がはるかに「関心・意欲・態度」があると多くの人は思えるのではないのでしょうか。

“個性を大切に”と言いながら、このような優等生的な規範の鋳型に子どもたちの心押し込めようというテストが、いかに非教育的で子どもたちを科学嫌いにさせているかを示す例です。

子どもたちに画一的思考を強要

文部科学省 = 自民・公明政権のねらいは？

子どもたちは本来のびのびとした自由な思考をするもので、大人も考えつかないような発想をすることもあります。

ところが、学力テストの問題の中には、出題者の「貧困な思考」で子どもたちの自由な発想を否定するようなものも見受けられます。

「数学的な考え方」を調べる問題というのがあります。「数学的思考」で大事なものは「思考の多様性の尊重」だと思いますが、文科省が決めた「学習指導要領」にそった考え方しか選択肢にないものもあります。23区で平均点が高いのは「文科省の求める答えをさっと出す...受験中心の教育が中心になっているから」という指摘もあります。

全国一斉学力テストがやられ、財界が求める「学校ごとの成績発表」がされたら、表面の足立区のように全国で「過去問・模擬試験」にあけくれ、子どもたちに画一的思考を強要する事態になりかねません。

戦前の教育は「天皇は現人神、いざという時は喜んで命を捧げる」という画一的教育がされ、太平洋戦争に突入しました。

「美しい国づくり」を掲げ、全国一斉学力テストを強行した安倍首相は辞任しましたが、「戦後レジームからの脱却」と称して、戦前への回帰をねらう「靖国派」のねらいもいっしょに退陣願いたいものです。 中原雅之

確かな学力を身につけ、生きる力を育て、バランスのとれた人間の育成が重要・・・教育長

9月5日、羽村市議会定例会の一般質問で、中原議員は、以上のような一斉学力テストの問題点を指摘しながら、教育長の見解をたずねました。

中原 「一斉学力テスト」の成績に振り回されることなく、どの子も勉強がよくわかり、人間として大切にされる学校にしていくための取り組みをすすめるべきと考えるが、「一斉学力テスト」についての教育長の見解と、教育の充実についての今後の取り組みはどうか。

教育長 生徒一人一人の学習の実現状況をとらえ、その改善を図るためには、客観的な資料が必要であり、本調査は、改善を図るための資料の一つとして意義あるものと考えている。今後の取り組みについては、児童・生徒に確かな学力を身につけさせるとともに、全人的な生きる力を育て、バランスのとれた人間の育成が重要と考えており、「長期総合計画」にあるように、児童生徒の学習する意欲と生きる力をはぐくみ、たくましく心優しい羽村市民へと成長することを願って、羽村の特色をいかした教育活動や学習環境の充実を一層推進していく。

中原 少人数学級の実施を

教育長 現在、小学校の算数、中学校の数学と英語において少人数指導をおこなっており、今後もより一層少人数指導の充実を図っていく。

中原 学習サポーターの増員を

教育長 現在、小学校6校に各1名、松林小学校に2名の学習サポーターを、週5日、一日4時間配置しており、効果を上げている。今後も、指導の充実を図っていく。

中原 学校図書室への司書の配備の充実を

教育長 現在、小・中学校に5名の学校図書館巡回司書が、週1回、一日4時間勤務し、学校図書館の整備や児童への読み聞かせ等を行い、児童・生徒の読書活動の推進を図っている。今後も、学校図書館巡回司書事業の一層の充実を検討していく。

中原 特別支援学級、通級指導学級の拡充を

教育長 特別支援学級、通級指導学級は、入級希望に応じて、施設を増設してきたが、今後は、通常の学級においても、より適切な指導、教育ができるよう研修等を通して指導力を向上させ、充実を図っていく。

中原 校舎、体育館などの整備促進を

教育長 校舎や学校施設などの整備については、工事費が高額となるため、国の補助事業を利用して計画的に実施してきた。今後も教育内容の変化に対応した学習環境を整え、生活の場として、健康に配慮した、安全・防犯性への対応、バリアフリー対策などを行った学校施設となるよう、計画的に整備を実施していく。

